

第10回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会 議事録

[日 時] 平成23年10月14日(金) 13:30~16:45

[会 場] トラストシティ カンファレンス・丸の内

[出席者]	専門委員	6名
	長野広域連合	6名
	(財)日本環境衛生センター	1名
	八千代エンジニアリング(株)	3名(前半)
	(株)エイト日本技術開発	3名(後半)

委員会協議概要

(1) 第9回委員会議事録の承認

議事録について承認された。

(2) B焼却施設の基本計画作成について

事務局から、環境影響評価に必要な施設諸元について前回の会議で指摘があった事項について説明し了承を得た。処理方式の選考、震災等に対する考え方について説明し協議を行った。

<委員意見等>

- ・資料中の評価項目に沿って各メーカーの提出資料を評価した場合、処理方式間の差よりも各メーカー間の差が影響してくる可能性があるので考慮したほうが良い。
- ・地域性に配慮した評価項目は、方式選定時ではなく事業者選定時に行う方が良い。ただし、先に方式選定をする中で順位がついてしまい、その後の事業者選定に参加できないということになると、地域性の評価ができないということがある。
- ・燃料や薬品は安定供給されるのが前提であったが、非常時も想定した適正なストック量とする必要がある。
- ・非常用発電機による施設の立ち上げ、定期点検の遵守等についても検討を行う方が良い。

(3) A焼却施設の事業手法等調査検討、整備計画等作成について

事務局から、プラントメーカー向けの事業手法調査結果の中間報告を行い、今後実施する自治体向けの事例調査の内容、施設の基本システム等の考え方を説明し、協議を行った。

(メーカー向け事業手法調査結果について)

<委員意見等>

- ・他案件において、ごみ量については固定費、変動費の複合で対応しているが、ごみ

質の変動については設定が難しく対応しきれていない面がある。本案件では極力配慮して進めてもらいたい。

(自治体向けの事例調査について)

<委員意見等>

- ・長期包括運営で運転専門系の業者と契約しているのはどのような事情があるのか調査した方が良い。
- ・計画時及び落札時の VFM について調査した方が良い。
- ・収入帰属に関して、熱供給に関することを追加した方が良い。

(基本システム等について)

<委員意見等>

- ・検討中の処理フローは、住民説明等によるこれまでの経過、経緯が最終処分量を極力最少化する方向で考えている事は理解するが、電気等のエネルギー利用の点や設備の面から見直すことも必要である。
- ・不燃・可燃の破碎残さを焼却処理する計画であるが、熔融処理の前処理について必要以上の処理はせず、なるべく簡素にした方が良い。最終処分できるものは最終処分とした方が良い。
- ・低空気比高温燃焼はメーカーによって技術の差があり、排ガス再循環を含め、本当にきちんとした設計ができるのか、実績を持っているのかをよく吟味する必要がある。
- ・レアメタル回収のために小型家電の分別回収が進む可能性がある。そうすると焼却用残さの組成が変わってくる可能性があるので配慮が必要である。
- ・二段バグフィルターは要求水準書（発注仕様書）へは明記せず、排ガス基準値、最終処分量、エネルギー回収量などの複合評価とすれば、プラントメーカー側で一番良いバランスのものを提案してくるのではないかな。

以上